



「彩の国エコボード255」を横塚部長(右)に紹介する水村県本部長(14日、さいたま市で)

鶏ふん肥料開発 20%安価

全農さいたまとメーカー

【埼玉】JA全農さいたまと肥料メーカーの朝日アグリア(東京都豊島区)は、県産の鶏ふん堆肥を原料にしたJAグループさいたまの独自肥料を共同開発した。県内の養鶏農家から排出された鶏ふんを使い、肥料費低減と家畜ふん尿処理対策を実現。「彩の国エコボード255」(1袋20kg)として県内各JAで5月以降、順次販売を予定する。

「彩の国エコボード255」は、県産の鶏ふん堆肥を約45%配合したペレット状の混合堆肥複合肥料。堆肥と化成肥料の一粒化で、肥料効果が長持ちするのが特徴だ。全農さいたまと同社は約10年前から堆肥を使った肥料の開発、取り扱いを進め、耕畜連携に取り組んできた。肥料価格の高騰が農業経営を圧迫する中、コスト低減を狙う。価格は販売店で決めるが、慣行肥料と比べ20%ほど安価に

循環型を拡大

抑えられる。全農さいたまは地域循環型肥料の取り扱いを拡大し、国の「みどりの食料システム戦略」の化学肥料使用量の削減目標を実現していきたい考えだ。

全農さいたまの水村洋一県本部長は「今回の肥料で原料の調達から生産まで県内で循環流通させ、農家がい、できた作物を食べる循環経済が形成される。このような取り組みは今後ますます求められる」と強調した。

14日、水村県本部長が県庁を訪ね、農林部の横塚正一部長に開発の経過を報告した。横塚部長は「県内の鶏ふん堆肥を使い地域内の循環利用が進むことで、畜産農家だけでなく生産者にメリットがある。広く利用できるようJAグループと協力して取り組んでいきたい」と話した。